

令和7年度
第1回
代議員会

<http://shochueiken.com/>



岐阜県小中学校英語研究部会

令和7年5月14日（水）

9:45～10:30 [予定]

※9:30よりミーティング開始

zoom によるオンライン会議

※表示名は【所属校 お名前】でお願い致します。

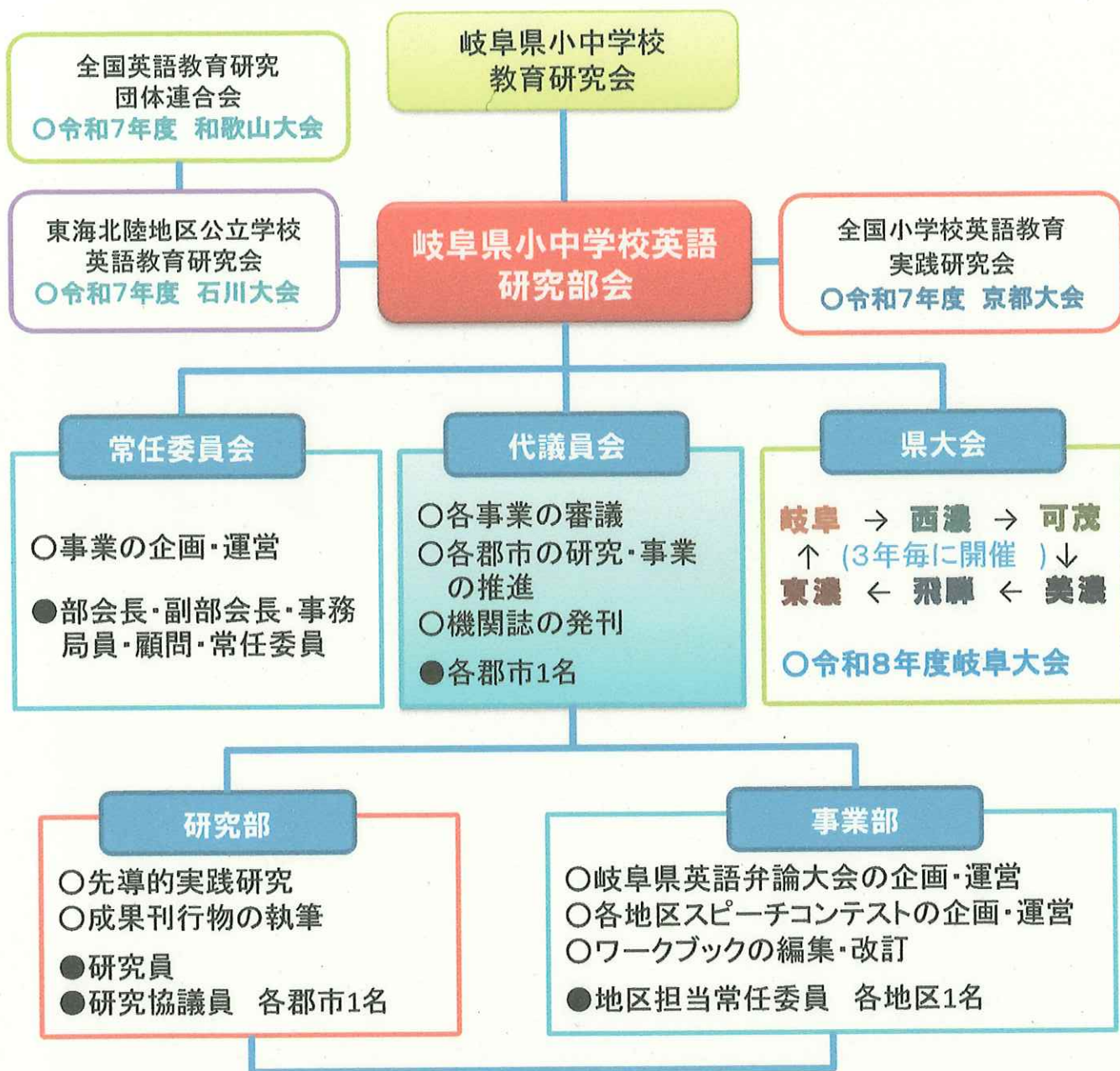
第1回代議員会

令和7年5月14日(水)

*zoomによるリモート開催

時 間	内 容 ・ 会 場
9:30	ミーティング開始 ・表示名は【所属校 お名前 (例) 下有知中学校 田中大輔】 【開始まで】 ・9:45までは、カメラ OFF・マイク OFF (ミュート) 【開始してから】 ・カメラは、可能な方は ON・マイク OFF (ミュート) ・発言や議決の際は、カメラ ON・マイク ON ・トラブルがありましたら、主務者までチャットでお知らせください。
9:45	全体会開始 司会【主務者：田中 大輔 関市立下有知中学校】 1 副部会長あいさつ (5分) 【副部会長 清水 浩樹 中津川市立加子母中学校】 2 本年度の研究 (15分) 【小学校：松田 洋和 多治見市立北栄小学校】 【中学校：後藤 健一 大垣市立西部中学校】 3 本年度の事業内容 (5分) 【濱 正人 池田町立池田中学校】 4 予算、旅費など (5分) 【中島 聡志 岐阜市立草潤中学校】 5 本年度の活動 (10分) 【田中 大輔 関市立下有知中学校】 ・質疑応答 ・議決 6 その他 (5分)
10:30	全体会終了 ・各自でご退出ください。

岐阜県小中学校英語研究部会(小中英研)組織



地区名	岐阜地区	西濃地区	美濃地区	可茂地区	東濃地区	飛騨地区
市郡名	岐阜市 羽島市 各務原市 山県市 瑞穂市 本巣市 羽島郡 本巣郡	大垣市 海津市 養老郡 不破郡 安八郡 揖斐郡	関市 美濃市 郡上市	美濃加茂市 可児市 加茂郡 可児郡	多治見市 土岐市 瑞浪市 恵那市 中津川市	高山市 下呂市 飛騨市 大野郡

岐阜県小中学校教育研究会 岐阜県小中学校英語研究部会 会則

(名称)

第 1 条 本会は、岐阜県小中学校教育研究会 小中学校英語研究部会(略称 県小中英研)と称する。

(目的)

第 2 条 本会は、岐阜県小中学校の英語教育推進のための事業及び研究交流を行うことを目的とする。

(会員)

第 3 条 本会の会員は、岐阜県内の小中学校、或いは他の教育機関に勤務し、英語教育の携わっている者、並びにこの会の目的に賛同して入会を希望する者とする。

(事業)

第 4 条 本会は、第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 研究大会の開催及び大会への援助
- 2 研究調査と研究内容の相互交流
- 3 中学生英語スピーチコンテストの開催
- 4 研究成果のまとめと成果刊行物・機関誌の発行
- 5 全国英語教育研究団体連合会等の研究団体への参加
- 6 その他、目的を達成するために必要なこと

(役員)

第 5 条 本会には、次の役員を置く。

部会長、副部会長(若干名)、事務局員(主務者、研究部長、研究副部長、事業部長、事業副部長、書記、会計)、顧問(若干名)

(役員の任務)

- 第 6 条
- 1 部会長は、本会を代表し会務を総理する。
 - 2 副部会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
 - 3 事務局員は、本会の会務を処理する。
 - 4 顧問は、本会が円滑に運営されるよう助言をする。

(役員の選出)

第 7 条 本会の役員は、会員のうちから次の方法で選出する。

- 1 部会長、副部会長、事務局員、顧問は、代議員会で選出する。
- 2 会長には、小中学校長をもって充てる。
- 3 副部会長には、次期県大会開催地区の会長及び小学校長1名を含むことを原則とする。
- 4 顧問は、県内各教育機関、学識経験者の中から適当と思われる者を充てる。

(役員の任期)

第 8 条 役員の任期は1年とするが、再任を妨げない。ただし、主務者については1回までの再任を原則とする。

(常任委員)

第 9 条 常任委員は、特別常任委員、専任常任委員(研究部常任委員・事業部常任委員)、地区常任委員の外、監事、評議員、及び地区顧問を充て、会長が指名した後、代議員会の承認を得る。ただし、地区常任委員は、第1回代議員会において互選の上、選出する。

- 2 評議員は、本会を代表して岐阜県小中学校教育研究会委員を兼ねる。
- 3 地区顧問は、地区ごとに開催されるスピーチコンテストの責任者を務める。
- 4 特別常任委員は、必要に応じて会長が指名することができる。

(機関)

第10条 本会には、次の機関を置く。

・代議員会 ・役員会 ・常任委員会 ・研究協議員会

(代議員会)

第11条 代議員会は、本会の議決機関であって、各郡市より1名ずつ選出された代議員と役員、常任委員で構成し、年2回部会長が招集するほか、必要のある時には臨時に開くことができる。

2 代議員会は、次の事項を審議決定する。

- 1 会則等の改正に関する事
- 2 役員等の承認に関する事
- 3 研究及び事業の大綱に関する事
- 4 その他本会の運営に関する事

3 代議員会は、代議員数の3分の2以上の出席をもって成立し、審議事項の議決は、出席者の過半数をもって決する。ただし、会則の改正は、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(役員会)

第12条 部会長は、必要に応じて役員会を招集することができる。

(常任委員会)

第13条 常任委員会は、役員及び常任委員をもって構成し、本会の執行機関としてその目的を遂行するための会務を行う。

(研究協議員会)

第14条 研究協議員会は、役員、常任委員、研究員及び研究協議員(各郡市1名)で構成され、代議員会の決定に従って会務を推進する。

2 研究員は、会員の中から部会長が指名し、代議員会で報告する。

(経理)

第15条 本会の経費は、会費、補助金、その他の収入をもってこれに充てる。

2 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第16条 本会の事務局は、主務者の勤務する学校に置くことを原則とする。

(規定)

第17条 本会の運営に必要な規定は、別にこれを定めることができる。

付則 この会則は、昭和45年4月1日より施行する。

昭和54年4月1日 一部改正

昭和63年4月1日 一部改正

平成11年4月1日 一部改正

平成20年4月1日 一部改正

平成22年4月1日 一部改正

平成23年4月1日 一部改正

平成25年4月1日 一部改正

平成29年4月1日 一部改正

令和7年度 岐阜県小中学校英語研究部会 本部役員・事務局員・常任委員・研究員

■本部役員

部会長		中 村 行 雄	中津川市立南小学校
副部会長	小学校研究部担当	水 野 幸 弘	海津市立今尾小学校
	中学校研究部担当	清 水 浩 樹	中津川市立加子母中学校
	事業部担当	平 田 昌 隆	関市立旭ヶ丘中学校
	岐阜大会担当	武 藤 広 朗	岐阜市立鶉小学校
顧問		平 野 裕	岐阜市立早田小学校
		岸 貴 彦	羽島市立桑原学園
		佐 野 光 範	瑞穂市立牛牧小学校
		大 坪 由 美	養老町立日吉小学校
		尾 石 光 正	多治見市立北栄小学校
		武 部 八 重 子	本巣市立根尾学園
		勝 部 佳 純	多治見市立笠原中学校
		間 宮 弘 介	中津川市立苗木中学校
		高 木 あ や	中津川市立坂本中学校

■事務局員

主務者		田 中 大 輔	関市立下有知中学校
研究部長	小学校部会	松 田 洋 和	多治見市立北栄小学校
	中学校部会	後 藤 健 一	大垣市立西部中学校
事業部長		濱 正 人	池田町立池田中学校
研究副部長	小学校部会	前 田 賢 人	瑞浪市立瑞浪小学校
	中学校部会	井 森 靖 人	郡上市立郡南中学校
事業副部長		村 地 巧 美	岐阜市立岐阜清流中学校
書記（ホームページ担当）		土 井 智 文	岐阜市立長森中学校
会計		中 島 聡 志	岐阜市立草濶中学校
		高 木 勇 希	関市立旭ヶ丘中学校

■常任委員

評議員		石 樽 千 恵	岐阜市立草濶中学校
監事		白 橋 茂 紀	岐阜市立岐阜中央中学校
		橋 本 文 洋	可児市立広見小学校

地区顧問	岐阜地区担当	清水 聖 士	岐阜市立本荘小学校
	西濃地区担当	小 出 恵 理 子	大垣市立日新小学校
	美濃地区担当	西 川 正 人	関市立下有知小学校
	可茂地区担当	松 浦 稲 子	白川町立黒川中学校
	東濃地区担当	岩 井 裕 美	中津川市立神坂中学校
	飛騨地区担当	伊 藤 英 和	高山市立国府中学校
研究部常任委員	小学校部会G長	吉 村 知 也	岐阜市立鶯小学校
		大 野 幸 恵	岐阜市立市橋小学校
		三 品 達 也	富加町立富加小学校
		宮 川 拓 也	岐阜市立藍川東中学校
		徳 田 良 磨	岐阜市立青山中学校
	中学校部会G長	平 倉 一 輝	羽島市立桑原学園
		國 枝 秀 祐	大垣市立興文中学校
		稲 垣 佑 実	垂井町立不破中学校
		田 森 朝 水	多治見市立小泉中学校
		中 西 俊 次	高山市立松倉中学校
事業部常任委員	岐阜地区担当	大 塚 光 朗	岐阜市立岐阜清流中学校
	西濃地区担当	久 保 田 恭 平	垂井町立不破中学校
	美濃地区担当	石 原 佑 華	関市立下有知中学校
	可茂地区担当	高 木 昂 太	美濃加茂市立西中学校
	東濃地区担当	島 倉 渉	土岐市立濃南中学校
	飛騨地区担当	松 木 耕 平	飛騨市立神岡中学校

■研究員

小学校部会	田 中 真 由 子	岐阜市立本荘小学校	武 藤 恵 里 佳	郡上市立大和小学校
	鈴 村 友 浩	岐阜大学附属小中学校	金 田 ル ツ 紀	可児市立今渡北小学校
	山 田 陽 平	羽島市立竹鼻小学校	青 井 考 起	多治見市立笠原小学校
	鈴 木 し ほ り	羽島市立中央小学校	松 井 佑 斗	恵那市立大井第二小学校
中学校部会	宮 地 美 似	羽島市立竹鼻中学校	泉 香 里	郡上市立明宝中学校
	藤 沢 由 美 香	羽島市立中島中学校	小 川 裕 美	可児市立中部中学校
	森 彩 乃	各務原市立中央中学校	松 本 純	土岐市立泉中学校
	細 江 美 香	瑞穂市立巣南中学校	小 森 亮	恵那市立恵那西中学校
	山 下 雄 基	北方町立北学園	石 原 文 太	中津川市立第一中学校
	伊 藤 智 晶	海津市立日新中学校	新 井 友 康	高山市立日枝中学校
	都 竹 侑 香	安八町立登龍中学校	千 嶋 里 英	高山市立中山中学校
	打 田 卓 生	関市立緑ヶ丘中学校	日 下 部 晴 信	下呂市立金山中学校
	永 田 貴 大	郡上市立白鳥中学校		

令和7年度 岐阜県小中学校英語研究部会 郡市別代議員・研究協議員・研究テーマ一覧

	代議員		研究協議員		研究テーマ
	氏名	勤務校	氏名	勤務校	
1	岐阜市 片岡 由莉江	梅林中	三島 光陽	長森中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～
2	羽島市 栗木 智晴	桑原学園 (後期課程)	大鐘 弥生	中央中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて (小) ～五領域における「目指す姿」を明確にし、言語活動の中でその到達を実感させる指導の在り方～ (中) ～五領域における学習到達目標を明確にし、言語活動の中でその到達を実感させる指導の在り方～
3	各務原市 中西 恵多	尾崎小	森 彩乃	中央中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価のあり方～
4	山県市 奥田 紗帆	高富中	澤口 舞花	高富小	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～
5	瑞穂市 迫田 一輝	穂枝中	矢野 檀	奥南中	コミュニケーション活動を通して、相互理解や異文化理解を深める児童・生徒を育てる指導を求めて
6	本巣市 春日井 貴博	糸貫中学校	河合 美保	本巣中学校	目的に応じて自己を表現し、主体的にコミュニケーションに挑み続ける児童生徒
7	羽島郡 丹羽 香恵	東小	吉幸田 圭祐	笠松中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
8	本巣郡 花村 菜侑	北学園	高橋 咲衣子	北学園	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～
9	大垣市 細井 昭彦	江並中	細井 昭彦	江並中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の在り方～
10	海津市 水谷 仁美	平田中	安立 友紀	下多度小	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～
11	養老 小森 日向	養老小	藤田 千恵	養老小	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる
12	不破郡 澤島 雅和	垂井北中	浅井 香歩	関ヶ原中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～
13	安八郡 安藤 雅裕	神戸中	後藤 翼	神戸中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～
14	揖斐郡 濱 正人	池田中	小寺 杏奈	大野東小	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～

		代議員		研究協議員		研究テーマ
		氏名	勤務校	氏名	勤務校	
15	関市	石原 佑華	下有知中	服部 真奈	旭ヶ丘中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～自らを表現し、粘り強く伝え合う個と集団の育成～
16	美濃市	高橋 加奈子	美濃中	古田 優介	美濃中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～
17	郡上市	武藤 悠樹	高鷺中	清水 啓太	八幡中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける生徒を育てる指導を求めて
18	美濃加茂市 加茂郡	上北 一輝	川辺中学校	中井 智大	東中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける生徒を育てる指導を求めて ～5領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中で、その到達を実感させる指導・評価の在り方～
19	可児市	西原 裕貴	西可児中	高橋 朱音	春里小	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～
20	可児郡	杉浦 京子	共和中	曾我 昂平	向陽中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～
21	多治見市	村井 良輔	多治見中	曾我 治寿	多治見中	積極的にコミュニケーションを図り、「できた・わかった」を実感できる児童・生徒の育成
22	土岐市	島倉 渉	濃南中	各務 晴菜	土岐津中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける生徒を育てる指導を求めて
23	瑞浪市	木股 輝彦	瑞浪北中	林 菜瑠	土岐小	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～
24	恵那市	土屋 智裕	恵那東中	各務 愛永	岩邑中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導
25	中津川市	石原 文太	第一中	田口 陽子	落合小	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～
26	高山市 大野郡	新井 友康	日枝中	犬石 莉愛	東山中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～個別最適な学びと協働的な学びの一体化を求めて～
27	飛騨市	都竹 菜央	古川中	川端 奏海	神岡中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～
28	下呂市	神戸 海社	金山中	今井 大貴	竹原中	「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて ～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～

◆収入の部

科 目	金 額	内 訳
会 費	573,500	¥620×925名
前年度繰越金	18,060	
計	591,560	

◆支出の部

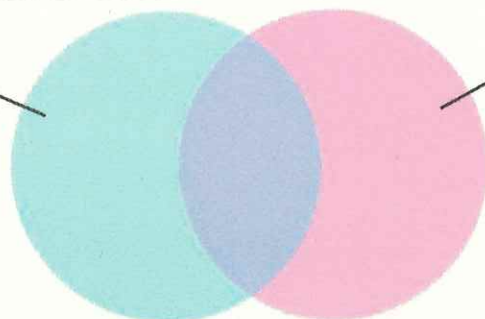
科 目	金 額	内 訳
研究大会	報償金	
	会議費	
	旅費	
	消耗品費	
	印刷製本費	
	通信費	
	使用料及賃借料	
研究調査	報償金	
	会議費	
	旅費	
	消耗品費	
	通信費	
	使用料及賃借料	40,000 会場使用料
	分担金	10,000 全英連分担金
	図書購入費	
成果刊行	消耗品費	
	印刷製本費	480,000 Ways of Teaching English
	通信費	30,000 Ways of Teaching English配送料
予備費	31,560	次年度へ繰越分（4月分会場使用料として）
計	591,560	

◆収支の部

収入	支出	収支
591,560	591,560	0

0. はじめに

岐阜県の先生方が
知りたいこと



研究員の先生方が感じられ
ている授業づくりの課題や
もっと研究したいこと

令和9年度には、第51回東海北陸公立学校英語研究会が、岐阜県で開催されます。2年後の岐阜県大会では、何を売りにした大会とするのか。大会のメインテーマは？分科会の数、内容は？自分だったらどのようなことを知りたいのか。令和の学校教育でどのようなことが求められているのか。学びに来てくださる他県の方はもちろんのこと、岐阜県の外国語部会としても学びのチャンスになるよう、皆でアイデアを出し合い、実践し、互いに刺激合っていきましょう。

1. 今年度の研究の方向

岐阜県小中英語研究会の研究主題

「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて
～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～

※来年度、新しい研究主題に更新したいと考えている。

- ・自分の考えをなんとか伝えられる児童
- ・伝え合う内容を楽しみながらコミュニケーションを広げ、深める児童

※5月17日の研究協議会で研究員の方々の意見を聞き、さらにアップデートする予定

上記の研究主題を受けて、小学校部会におけるめざしたい児童は以下のようになりました。

その為に、今年度は、児童が、「もっと考えたくなる(考え合いたくなる)・もっと聞きたくなる・もっと伝えたくなる(伝え合いたくなる)・もっと読みたくなる・もっと書きたくなる言語活動」を念頭において単元指導計画、評価計画、展開案を作成します。

その際、岐阜県小中英語研究会の強みである『小学校と中学校との連携』をさらに色濃くしていきたいと考えました。そこで、今年度、小学校部会では、単元指導計画の枠を中学校部会の資料をベースにします。

過去の小学校部会の考え方や資料の良さを引き継ぐとともに、国立教育政策研究所の「指導と評価の一体化に関わる資料」を参考にして、資料を作成していきます。

2. 研究の具体的な内容

小学校部会では、大きく以下のような工夫内容で、単元指導計画等を作成します。

指導計画の工夫	指導方法の工夫
① 小中5年間を見通した到達目標の位置付け ② 小中5年間の話題の系統性を意図した単元終末の発話・対話の設定 ③ 複数の領域で目標、評価基準を示す ④ 指導に生かす評価の位置付け ⑤ 単元または単位時間で学習の個性化を図る (例:ジャンプ課題)	① 問題解決的な学習課題の設定 ② デジタル教科書を含むICT機器の効果的な使用方法 ③ 頭を使ったインプット指導 ④ (中間)指導の工夫 ⑤ 個別最適な学びの場の位置付け 主体的・対話的で深い学びを生み出す授業

■指導計画の工夫について

① 小中5年間を見通した到達目標の位置付け

昨年度、岐阜県教育委員会より、NEW HORIZON をベースに、外国語活動を含む7年間を見通した到達目標が出されました。それを参考にして、他の教科書で、小学校の部分のみ、同様のものを作成しました。該当の教科書に合わせて、単元指導計画に位置付けていきます。

② 小中5年間の話題の系統性を意図した単元終末の発話・対話の設定

NEW HORIZON をベースに、教科書題材を5つの話題に分類しました。(中学校研究部資料参照)そうすることで、内容と言語材料に関わって、どのような内容を、どのような言語材料を使って、どの程度の発話・対話が妥当なのかを具体的にイメージしてもらいたいと考えています。

③ 複数の領域で目標、評価基準を示す

国研の「指導と評価の一体化に関わる資料」(右図)では、目標や評価基準が以下のように複数示されています。

例:「聞き取ったり、伝え合ったりすることができる」

これまで岐阜県では、中心となる指導事項の領域のみを目標と評価規準に示していましたが、単元を通して指導することを評価する為、教科書の指導書に準じて、複数領域に関わる目標や評価規準を示していくこととします。

指導と評価の一体化に関わる資料
国研の「指導と評価の一体化に関わる資料」(右図)では、目標や評価基準が以下のように複数示されています。 例:「聞き取ったり、伝え合ったりすることができる」 これまで岐阜県では、中心となる指導事項の領域のみを目標と評価規準に示していましたが、単元を通して指導することを評価する為、教科書の指導書に準じて、複数領域に関わる目標や評価規準を示していくこととします。

⑥ 指導に生かす評価の位置付け

国研の「指導と評価の一体化に関わる資料」には、右図のような「教師の指導改善のためのポイント例」が位置付いている。そこでは、本時のねらいや中心となる言語活動における児童の困り感を予測し、指導援助の工夫を考えています。

このように、今年度から作成していく単元指導計画には、「教師の指導改善のためのポイント例」を評価規準の欄に位置付けていく。

教師の指導改善のためのポイント例
国研の「指導と評価の一体化に関わる資料」には、右図のような「教師の指導改善のためのポイント例」が位置付いている。そこでは、本時のねらいや中心となる言語活動における児童の困り感を予測し、指導援助の工夫を考えています。 このように、今年度から作成していく単元指導計画には、「教師の指導改善のためのポイント例」を評価規準の欄に位置付けていく。

⑥ 単元または単位時間で学習の個性化を図る

本時のねらいに達していない児童には、本時のねらいを達成するための手立てを考えるとします。一方で、授業中盤でねらいを達成した児童への手立てはあまり考えられていない。つまり、C→Bへの手立ては考えているが、B→Aの手立てを考えていきたい。

例えば、単元の終末では、全員が同じ話題ではなく、自分自身の興味関心に応じた内容でコミュニケーション活動を行うことや、単位時間において、児童同士ではなく、ALTと対話することにチャレンジしてみることのように、「伝え合う内容の自由度の変化」や「条件の難易度を変化させること」等の工夫の中で、安易にできたではなく、「もっと考えたい、もっと話したい」の先の「できた・わかった」になるといい。

■指導方法の工夫について

① 問題解決的な学習課題の設定

簡単に言うと、「夏休みの思い出を伝え合おう」は課題なのかということです。これは、単なる行動目標であると言えます。「夏休みの思い出を、過去形を使って伝え合おう」という言語材料を入れることでもありません。例えば、「夏休みの一番の思い出を伝え合って、仲間の思い出から『次は自分もそれがしたい!!』を見つけよう」にすると、ちょっとワクワクしながら伝え合うかもしれませんよね。

よく言われるのが目的や場面、状況を示した必然性のある言語活動を設定することです。しかし、敢えて言うと、目的や場面、状況を示した必然性のある言語活動を設定しても、それが児童の「もっと」に繋がらない場合もあります。つまり、それらがあればよいという訳ではありません。

理科においては、「なぜ?」という認識のズレをうまく感じさせる中で、本能的に解決したくなるような課題化が児童の「もっと」につなげている。それでは、外国語科ではどうなのでしょう。児童が、本能的に取り組みたくなるような課題化とは、どのような目的意識、相手意識が必要なのでしょう。

そこで、研究協議会では、児童の「もっと」につながるような問題解決的な学習課題の設定のコツを整理したいと考えています。

② デジタル教科書を含むICT機器の効果的な使用方法

小学校部会では、これまでも、展開案の中で、ICT機器の効果的な活用に関わる指導の工夫を位置付けていました。外国語科では、ICT機器を使う目的やねらいを明確に持ち、は以下のように整理されると考えます。

- ・課題意識を高めるため
- ・表現面を習熟させるため
- ・内容面を広げ、深めるため
- ・自己の伸びや課題を理解するため

これら以外にも、「個別最適な学び」のための工夫として、学習支援ツールやデジタル教科書等のさらにより使い方を提案できるように、意見を出し合っていきます。

③ 頭を使ったインプットの指導

知識・技能が中心となる授業において、語彙や文法等の習得の際に、ただ繰り返し練習をしたり、決められたことを言ったりするだけの場になるのではなく、児童が注意を払って聞いたり言ったりすることができるようなインプットになるような一工夫のあるインプット方法を、先生方の実践例を基に入れていきたい。

④ (中間)指導の工夫

中間指導のイメージは「何か困ったことはない。」とたずねて表現を共有することとイメージをもっている方も多いと思います。しかし、中間指導とは、児童の困ったことを聞くだけの場ではありません。

元々、中間指導とは、できるだけ多くの児童が授業のねらいを達成するための指導の場として位置付けています。そのため、知識・技能が中心の授業と、思考・判断・表現が中心の授業では、中間指導の内容が違います。

その中の一つの方法として「児童の伝えたいけれど言えなかった表現を吸い上げる」ことがあります。一方で、思考・判断・表現が中心の授業では、思考を加速させるための一手を中間指導に打つ場合もあります。例えば、新たな情報を出すことで、「もっと内容面を工夫したい!」と思わせることも一つでしょう。

また、中間指導という言葉のように、本当にAct1とAct2の間にだけ指導をいれるのかということそうではない場合もあります。だからこそ、児童の困り感をと予測し、どのような手を準備しているのかが大切になってきます。

あくまでも、できるだけ多くの児童が授業のねらいを達成できるような手立てを位置付けていきましょう。

⑤ 個別最適な学びの場の位置付け

同じ技能教科である体育科の学習では、一斉に学ぶ場と自己課題に応じて練習をする場があります。外国語の学習において、個別最適な学びとはどのような指導方法があるのでしょうか。特に指導の個別化を外国語の授業で行うとするとどのような手立てが考えられるのか共に考えていきましょう。

全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。

【文部科学省 2. 育成を目指す資質・能力と個別最適な学び・協同的な学び】

3. 今年度の研究へ向けて

昨年度に引き続き、今年度も小学校部会では「不易流行」というテーマを掲げて1年間研究を行います。ここに込められた願いとは、「本質から離れない」ということです。

「指導と評価の一体化」や「個別最適な学び」等、昨今、研修の場でよく話題になることがあります。しかし、評価の変革を調べてみると、「指導と評価の一体化」は、近年大切にされ始めたわけではなく、実は、平成13年度からずっと言われ続けていた言葉です。

それらは何も新しく「今」だから始まったものではなく、先人達の教育、または指導においてすでに大切にされてきたものであります。形や方法、教材教具が変わっても、不変的なものがあります。それこそが教育の本質であるということです。

とは言え、ICT 機器やデジタル教科書等、昔にはなかった教材教具が今の私たちにはあります。「学習指導要領」や「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」を拠り所としながら、研究に関わる皆さんと、私たち自身も「もっと」楽しく刺激的で面白い指導方法を考えていきたいと思っております。

単元指導計画例 ※国立教育研究所「指導と評価の一体化に関する資料」を参考

時間	目標■・主な言語活動	評 価			
		知	思	態	評価規準（評価方法）
1	■				
	① ② ③ ④ ⑤	本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。			[教師の指導改善のためのポイント例] 指導に生かす評価として、指導改善のポイント例を、毎時間明記する。
2	■				
	① ② ③ ④ ⑤	本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。			[教師の指導改善のためのポイント例]
3	■				
	① ② ③ ④ ⑤	本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。			[教師の指導改善のためのポイント例]
4	■				
	① ② ③ ④ 【Let's Watch and Think 5】 p.15 「デジタル教材を視聴して Laksh について分かったことを、テキストに書く。」 ⑤			聞 聞 記録に残す評価をする場合は、評価をする児童の言語活動を枠で囲む。	[教師の指導改善のためのポイント例] 「聞くこと」の記録に残す評価 ◎相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取っている。 ◎相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ろうとしている。 ・児童が聞き取る様子やテキストの記述を分析し、評価の記録を残す。

本年度の研究の方向

中学校研究部長 後藤 健一（大垣市立西部中学校）

1. 令和7年度の捉え

令和3年度に、旧教科書が使用開始になってから、本研究部では、「指導と評価の計画」の作成と具体的な評価問題の作成をしてきました。しかし、この教科書も、今年度からは、新教科書へと変わります。そこで、今年度は新しい教科書で「指導と評価の計画」やそれに関わる単元指導計画や評価問題を作成していきます。県内の先生方が、日々の授業作りに役立つWaysを作成していきたいと考えていきます。

また、令和8年度には、岐阜県大会（岐阜地区大会）があり、令和9年度には東海北陸大会があります。それらにもつなげていける研究部の活動にしていきたいと考えています。以下が現段階の岐阜県大会の概要になります。

【令和8年度岐阜県大会（岐阜地区）について】

- ・令和8年11月12日（木）
- ・不二羽島文化センターを拠点とする。
- ・羽島市が中心となるが、他の市町が公開することもある。
- ・5公開する。（小5、小6、中1、中2、中3）

2. 本年度の研究の方向

○研究主題（検討中）

これまでと同様、以下の研究主題のもと、研究を進めていきますが、1年かけて研究主題を見直していきます。

「できた・分かった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～

○研究内容

以下の3点を研究内容に部会を運営していきます。

- ①5年間の系統性を意識した学習到達目標の設定
- ②インプットとアウトプットのバランスの取れた単元指導計画の作成
- ③「4つの学習過程」を意識した授業作り

○研究内容の具体①：5年間の系統性を意識した学習到達目標の設定

みなさんは、学習到達目標をどのように活用していますか？私はよく「New Horizonの裏表紙にある学習到達目標」を使用して、単元のゴールと学習到達目標にずれがないかを考えたり、生徒に今やっている学習内容と学習到達目標が合致していることを伝えたりします。

では、この学習到達目標の扱いに関わって、様々な資料ではどのように述べられているのでしょうか。

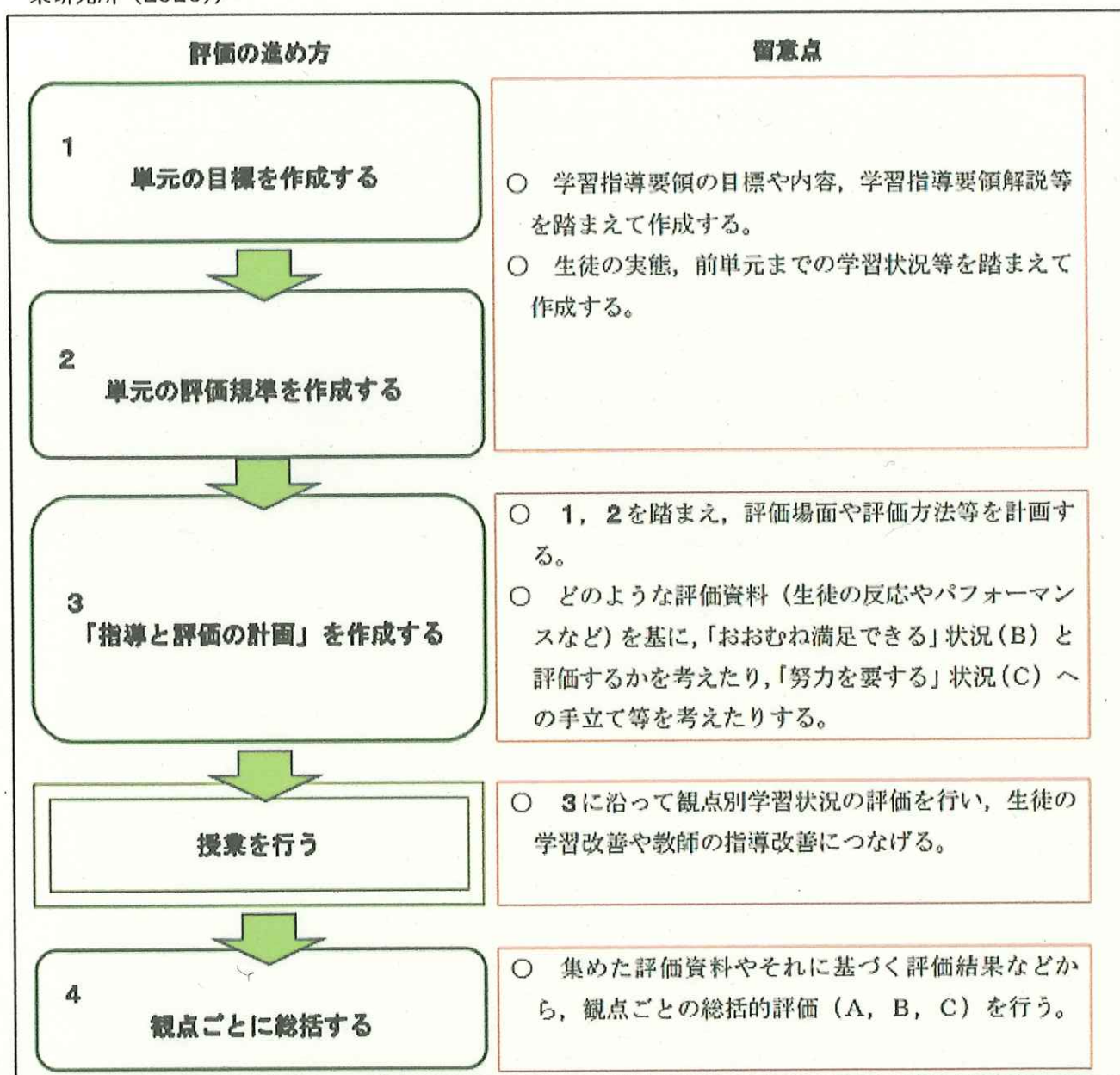
まず、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所（2020））を見ていきます。P.37に評価規準の作成の手順として、以下のような図が示されています。さらに、次のページに解説があり、図中にある「単元の目標」は、学年の目標を設定し、その学年の目標は、学習到達目標をもとに作成することが示されています。

つまり、学習到達目標が、単元の目標を設定する際の土台になるものであるということです。

しかし、実際の授業では、学習到達目標のことを忘れてしまって言語活動を設定したがために、言語活動が難しすぎたり簡単すぎたりして生徒が生き生きと活動できない、もしくは生徒が生き生きしているように見えても、実は力がついていないという授業がよくあるように感じます。

そこで、すべての言語活動において、学習到達目標と照らし合わせて、適切なものを実施していきます。

【学習評価の進め方について】（抜粋『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所（2020））



次に、「小・中学校外国語科における各学年の学習到達目標（例）」及び「小学校外国語活動における各学年の目標（例）」を作成する際の5つのポイント（岐阜県教育委員会（2025））を見ていきます。こちらの資料は、令和5年度の学力・学習状況調査【英語】の結果を踏まえて作成されたものです。この中からいくつか抜粋してお伝えします。

1つ目は、学習到達目標を設定することのよさとして、小中7年間の系統性をもたせられることが述べられていることです。学習到達目標という1つの柱があることで、小学校から中学校にどのようにレベルが上がっているのかが明確になっていきます。

この点について、小学校研究部長の松田先生と話をすることで、各単元の学習活動を話題ごとに整理することで、このよさをより具体的にしていこうという話になりました。そこで、New HorizonとNew Horizon Elementaryの各単元の学習活動を付箋に書き、模造紙に貼り付け、仲間分けをしてみました。以下がその結果です。

【各単元の主な言語活動の話題に関わる5年間の系統性】

	自分自身に関わること	他者に関わること	場所に関わること	ものや文化に関わること	世界や社会問題に関わること
中3	SA3 ミニディベート SA2 活動報告 U0 夢中なこと	U5 理想のリーダー		SA1 日本・郷土文化 U2 エシカル商品 U1 ポップカルチャー	U6 地球市民としての抱負 U4 地域の一員としての防災 U3 絶滅危惧の動物
中2	U3 10年後の自分へ U0 春休みの思い出		U7 日本の世界遺産 U1 休日のプラン	U6 調査結果 U4 日本の習慣やマナー SA1 好きな日本食 U2 ご当地グルメ	SA3 ディスカッション U5 取り入れたい ユニバーサルデザイン
中1	SA3 思い出 U10 日記 U9 過去の出来事 U0, U1, SA1 自己紹介	SA2 好きな有名人 U6 キャラクター U5 友だち U3 知らない人やもの U2 身近な人やもの	SA2 自分の学校生活		U8 協力を呼びかけるポスター
小6	U8 夢ややりたいこと U7 小学校の思い出 U3 週末にしたこと U2 日常生活 U1 好きなもの、宝物		U4 世界の行きたい国		U6 世界とつながりのあるもの U5 世界が抱える問題
小5	U3 できること U2 誕生日、ほしいもの U1 名前や好きなもの	U8 憧れの人 U4 身近な人	U7 日本の素敵な場所		

この表がすべて正しいわけではありません。指導者の捉えによって、別の分類をした方がいいところもあるかもしれません。しかし、これを見ることで、例えば、自分自身に関わることを話す力が、小5から中3にどのようにレベルアップしているのかが分かりやすくなります。そうすることで、指導する際に、「この既習事項からスタートさせてみよう」とか「この指導をしっかりとやればレベルアップできそうだ」ということを明確にできます。

そこで、各単元の言語活動が小中5年間のどの単元と関わりがあるのかを明確にした指導と評価の計画を作成していきます。

○研究内容の具体②：インプットとアウトプットのバランスの取れた単元指導計画の作成

2つ目は、1つの単元で複数の領域を指導・評価することです。これまで、「この単元は、「話すこと【やり取り】」でいこう」というように、1つの単元で1つの領域しか指導してこなかったということはないでしょうか。実施に Ways でもそのような提案をしています。

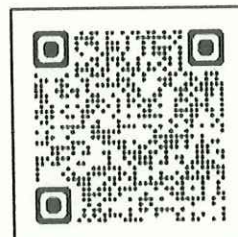
しかし、同時に違和感もなかったでしょうか。これでは、「読むこと」や「聞くこと」の指導と評価をどうしたらいいのだろうと。もしくは、単元序盤の授業で、インプットよりもアウトプットを重視しすぎている授業に覚えはありませんか。つまり、内容理解後の対話活動で、読み取ったことをほぼ使わずに発話しているような授業です。または、長文の指導でQ&Aに終始していて、概要をつかむ指導がよく分からないということはありませんか。

そこで、「小・中学校外国語科における各学年の学習到達目標（例）」及び「小学校外国語活動における各学年の目標（例）」を作成する際の5つのポイント（岐阜県教育委員会（2025））では、1つの単元で、複数の領域を指導することが明記されるようになりました。その一部を下に示します。また、二次元コードを読み取り、ご覧ください。

そこで、すべての単元において、インプットの領域とアウトプットの領域において、単元の目標と評価規準を設定します。また、それぞれに対する評価問題を作成します。そうすることで、先に挙げたような違和感・悩みを改善し、インプットとアウトプットのバランスの取れた力を育成する授業づくりにつながる指導と評価の計画を作成します。

【記録に残す評価の単元の一覧（例）】（抜粋 中 NH×小 NHE R7_岐阜県版学習到達目標の例（岐阜県教育委員会 HP(2025)）

中学校第3学年における記録に残す評価を行う単元					
	聞くこと	読むこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	書くこと
Unit 1		○ [ア]			● [イ]
Unit 2	● [ウ]				● [イ]
Unit 3		● [ウ]			● [イ]
Stage Activity 1			● [ウ]		● [イ]
Let's Read 1		● [イ]			
Unit 4		● [イ]		● [ウ]	
Unit 5		● [ウ]		● [イ]	● [ウ]
Stage Activity 2			● [ウ]		● [ウ]
Unit 6	● [ウ]			● [ウ]	
Stage Activity 3	● [ウ]		● [ウ]		
Let's Read 2		● [イ]		● [ウ]	
Let's Read 3		● [ウ]			



○研究内容の具体③:「4つの学習過程」を意識した授業作り

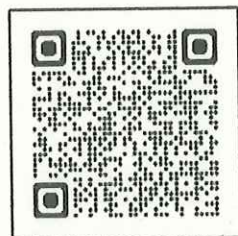
では、これらの力を養うために、具体的にどのような授業作りをしていくとよいのでしょうか。

「令和5年度全国学力・学習状況調査 調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する 指導資料～学習過程を意識した授業づくり～」(国立教育政策研究所(2025))には、前回の全国学調の結果を踏まえて、言語活動を実施する際の学習過程の具体例が示されています。

以下の4つの事例での「4つの学習過程」が示されています。二次元コードを読み取り、一度ご覧ください。

【令和5年度全国学力・学習状況調査 調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する 指導資料～学習過程を意識した授業づくり～】(国立教育政策研究所(2025))

- 事例1 自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を聞き取る（聞くこと）
- 事例2 短い文章の概要を捉える（読むこと）
- 事例3 言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける（書くこと）
- 事例4 聞いたことを基に自分の考えや理由を話す（話すこと）



いずれの事例の学習過程についても共通して言えることは、以下のようなことです。

- 学習過程1 言語活動の目的・場面・状況を設定する
- 学習過程2 言語活動に取り組ませる
- 学習過程3 ポイントを整理するなど、指導する
- 学習過程4 再度、言語活動に取り組ませる

個人的な感覚ですが、これらの学習過程は、比較的「話すこと」の授業では意識されていることが多いと思います。一方、「聞くこと」や「読むこと」では、内容理解して終わりになっていて、聞き取り（読み取り）のポイントを指導していないということはないでしょうか。もしくは、「書くこと」の授業でも、一度書いて終わりで、再構築の時間が設定されていないということはないでしょうか。

すべての言語活動で、上の4つの学習過程を意識した授業の提案をしていきます。

3. 本年度の具体的な動き

○3年間の見通し

【作成物と県大会に向けた動き】

	作成物	県大会に向けて
R7年度	・ 1 学期前半の単元 ・ 県大会公開授業の単元	・ 指導案の検討をする。(第1～3回協議員会) ・ 検討中の「指導と評価の計画」を実践する。(11月) ・ 指導案の修正をする。(第4回協議員会)
R8年度	・ 1 学期後半の単元 ・ 2 学期前半の単元	・ 指導案を完成する。県大会プレゼン発表の準備をする。 東海北陸大会の準備をする。(第1～3回協議員会) ・ 県大会で授業を公開する。プレゼン発表をする。(11月) ・ 東海北陸大会の準備をする。(第4回協議員会)
R9年度	・ 2 学期後半の単元 ・ 3 学期の単元	・ 東海北陸大会の準備をする。(第1, 2回協議員会) ・ 東海北陸大会で実践発表をする。(8月)

【岐阜県大会（岐阜地区）で公開しそうな単元】

学年	時期的に公開しそうな単元
中1	(Unit6 A Rakugo Performer from the U.K.) Unit7 An Online Tour of the U.K.
中2	Unit5 What design is good for everyone?
中3	(Unit4 How can we help each other in a disaster?) Unit5 What makes a good leader?

また、各公開での主張点を明確にし、公開する授業を決めます。また、研究部の活動でもそれらを意識した指導の在り方を追求していきます。

【岐阜県大会（岐阜地区）の各公開での主張点（例）】

1 年生公開：小中接続を意識した即興的なやり取りの力の育成
2 年生公開：内容を整理して発信する力の育成
3 年生公開：社会的な話題についての文章を内容理解し、自分の考えを発信する力の育成

【「指導と評価の計画」の作成単元】

		R7 年度	R8 年度	R9 年度
N/H	1 年	・ U1, 2, 3, 4 ・ U7 (県) ※	・ U5, 6 ・ U7 (県) ※	・ U8 ・ U9 ・ U10
	2 年	・ U1 ・ U2 ・ U5 (県) ※	・ U3 ・ U4 ・ U5 (県) ※	・ U6 ・ U7
	3 年	・ U1 ・ U5 (県) ※	・ U2 ・ U3 ・ U5 (県) ※	・ U4 ・ U6
N/C	1-3 年	・ 1 年 L1-4 ・ 2 年 L1-3 の抽出単元 ・ 3 年 L1-3 の抽出単元	・ 1 年 L5-7 の抽出単元 ・ 2 年 L4-6 の抽出単元 ・ 3 年 L4-5 の抽出単元	・ 1 年 L8-9 の抽出単元 ・ 2 年 L7-8 の抽出単元 ・ 3 年 L6-8 の抽出単元

○作成物とチーム分け

【メンバー】

研究部長 1 名	研究副部長 1 名	G 長 6 名	岐阜地区大会授業者 3 名
研究員 N/H 12 名, N/C 3 名	研究協議員 N/H 約 10 名, N/C 約 3 名		

【チーム分け】

		G 長	研究員・授業者・研究協議員	人数の目安
N/H	1 年 U1, 2, 3, 4	田森	単指 U1, 2 () 単指 U3, 4 () OP 展開 () OP 評価 () IP 展開 () IP 評価 ()	研: 3 人 協: 1 人
	1 年 U7※	徳田	単指 () 公開授業案 (OP or IP 指導案&評価) () OP or IP 展開&評価 ()	研: 1 人 協: 1 人 授: 1 人
	2 年 U1	中西	単指 () OP 展開 () OP 評価 () IP 展開 () IP 評価 ()	研: 2 人 協: 1 人
	2 年 U2	國枝	単指 () OP 展開 () OP 評価 () IP 展開 () IP 評価 ()	研: 2 人 協: 1 人
	2 年 U5※	平倉	単指 () 公開授業案 (OP or IP 指導案&評価) () OP or IP 展開&評価 ()	研: 1 人 協: 1 人 授: 1 人
	3 年 U1	稲垣	単指 () OP 展開 () OP 評価 () IP 展開 () IP 評価 ()	研: 2 人 協: 2 人
	3 年 U5※	宮川	単指 () 公開授業案 (OP or IP 指導案&評価) () OP or IP 展開&評価 ()	研: 1 人 協: 1 人 授: 1 人
N/C	1 年 LI-4	副部長 井森	単指 () OP or IP 展開&評価 ()	研: 3 人
	2 年 LI-3 抽出		単指 () OP or IP 展開&評価 ()	協: 3 人
	3 年 LI-3 抽出		単指 () OP or IP 展開&評価 ()	(各 1)

- ・「※」は、令和 8 年度県大会での公開授業単元の指導案などを作成します。公開単元をどこにするかも含めて検討します。また、研究員・研究協議員は、岐阜地区の方が好ましいです。
- ・「単指」は単元指導計画、「OP」は Output, 「IP」は Input を表します。
- ・「単指」の担当者は、単元指導計画を作成する。「展開」の担当者は、単元指導計画中の指定された単位時間の展開案を作成する。「評価」の担当者は、評価問題を作成する。「公開授業案」の担当者は、R8 年度県大会に向けた指導案と評価問題を作成します。
- ・各グループで作成するものの担当を割り振る。人数の関係で複数のものを作成する場合があります。

4. 表記の統一に関わって

誤	正	誤	正
, (句点)	, (句点)	良さ, 良い	よさ, よい
P.70~71, p.70-p.71	pp.70-71	New Horizon/Crown	NEW HORIZON/CROWN
身に着けたい力	身に付けたい力	LESSON 1	Lesson1 (数字半角)
取り組み (名詞)	取組 (名詞)	UNIT 2	Unit2 (数字半角)
取組, … (動詞)	取り組み, … (動詞)	価値づける	価値付ける
位置づける	位置付ける	グローブをもつ	グローブを持つ
一貫性を持たせる	一貫性をもたせる	わかる	分かる
やりとり	やり取り	【テスト部会】 記号	【テスト部会】 符号
並びかえ, 並べ替え	並べかえ	ロイロノート/メタ文字等	学習支援ツール

Ways に記載する英文においては, (生徒の表現内容 Native Check を各校の ALT への依頼をお願い致します。Ways に記載する文言や英文をより正確なものにして, 読みやすいものにしていきます。

体裁が整っていることは, Ways の読みやすさにつながります。指導の評価と計画, 展開案, テスト問題は, 多くの先生方が, 学校の業務もある中で, 時間を割いて作成していただきました。先生方の考えや意図が, 読み手に伝わるのが, 最も大切なことです。最後の研究協議員会で仕上げて, 今年度の Ways を完成させましょう。

【参考資料】

- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (国立教育政策研究所 (2020))
- ・「小・中学校外国語科における各学年の学習到達目標 (例)」及び「小学校外国語活動における各学年の目標 (例)」を作成する際の5つのポイント (岐阜県教育委員会 (2025))
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査 調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する 指導資料～学習過程を意識した授業づくり～ (国立教育政策研究所 (2025))

内容のまとめり ①「話すこと [やり取り]」ア ②「読むこと」イ,ウ
作成者 ○○立○○中学校 □□□□, ○○立○○中学校

・「内容のまとめり」とは、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容 1 目標」のいずれかを示すものである。
・県教委作成の「記録に残す評価を行う単元」を参考に、複数示す。

1 第3学年の目標

- ・日常的な話題や社会的な話題について、客観的な事実や様々な理由などを、対話がより継続・発展するように、聞き手の理解の状況に適切に回答したり、自ら質問をし返したりするなどして、工夫しながらやり取りする。（話すこと「やり取り」）
- ・日常的な話題や社会的な話題について、世界情勢や歴史上の人物などについて書かれている情報量の多いまとまりのある英文を読み、必要な情報や概要、要点を捉えることができる。（読むこと）

・ WaysNo.64 p11 「学習到達目標」より抜粋する。

2 単元の目標

- ・スポーツの力について考えたり、相手のニーズに応じた提案をするために、自分の考えを、聞き手の理解に応じて同意や反対をしたり、さらに付け足しをしたりして伝え合うことができる。（話すこと「やり取り」）
- ・障がい者スポーツについての英文を読んで、これまでの経験と提案内容を支える理由とを整理して、概要や要点を捉えることができる。（読むことイ,ウ）

・アウトプットの3領域、「何のために（目的）」「何について（話題）」「どうすることができる（内容）」を記載する。
・インプットの2領域は、「何についての英文を読んで／聞いて（話題）」「概要／要点／必要な情報を捉えることができる」を記載する。

3 単元の評価規準

知識・技能		
・want A to～や間接疑問文の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 ・英語と自分とのかかわりについて考えたことや感じたことなどを用いて伝え合う技能を身に付けている。	・スポーツの力について考えたり、相手のニーズに応じた提案をするために、自分の考えを、聞き手の理解に応じて同意や反対をしたり、さらに付け足しをしたりして伝え合っている。 ・障がい者スポーツについての英文を読んで、これまでの経験と提案内容を支える理由とを整理して、概要や要点を捉えている。	・スポーツの力について考えたり、相手のニーズに応じた提案をするために、自分の考えを、聞き手の理解に応じて同意や反対をしたり、さらに付け足しをしたりして伝え合おうとしている。 ・障がい者スポーツについての英文を読んで、これまでの経験と提案内容を支える理由とを整理して、概要や要点を捉えようとしている。

「単元の目標」をもとに記載する。

4 言語活動における主な留意点

①「話すこと[やり取り]」に関わって

- ・根拠となり得るものは主観のみではなく、

・単元を通して、指導する際の留意点を記載する。
・特に単位時間が限られているものについては、第〇時と記入する。

②「読むこと」に関わって

- ・トピックセンテンスに着目して、段落構成を把握した上で、詳しく読むように指導する。→第〇時

5 本単元と関わりのある話題の未習単元・既習単元

- ・中3 SA1 Discover Japan「日本や郷土の文化」
- ・中2 U4 What is important in a homestay? 「日本の習慣やマナー」
- ・小6 Ux yyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyy 「自分の好きなスポーツ」

関わりのある話題の単元について、「学年」「単元名」「主な言語活動の話題」を記載する。

- ・教科書本文を扱う時間と単元終末の活動の時間（N/HにおけるPart1, 2/Read and Think1, 2/Unit Activity）については、必ず課題（二重線枠）と生徒の発話（破線枠）を記載する。その他の時間については、記載しなくてもよい。
- ・1時間で1つの枠ではなく、複数時間で1つの枠にしてもよい。例えば、Unit Activityを8・9時間目でやるといった場合である。その場合は、8・9のように記載する。（2桁になる場合は、半角で書く。）

※評価規準に、○が付いていない時間については、記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。

1 単元の目標

～～～を読んで、……～～～を捉えることができる。

「指導と評価の計画」の「単元の目標」と一致させる。

2 本時のねらい

人種差別に関する内容について理解し、自分の考えについて、教科書を引用するなどして、まとまりのある英文を書くことができる。

3 展開案

単元	学 習 活 動	指導改善のためのポイント
導 入	①Small Talk “Do you keep the rule of information moral of Shimouchi J.H.S” ・ペアで対話した後に全体交流を行う。 Yes, I do. I almost keep the rule, but sometimes I use my phone until ten. I should be careful. ②デジタル教科書を用いて音声と視覚で本文の内容理解をする。 内容理解の視点：Why was Ms. Parks arrested? ・どの教科書本文を根拠とした考えなのかを交流・確認する。 What do you think about this problem?	・以下の英文を根拠として内容理解をさせる。(②) 根拠となる英文 ・ She was sitting near the ‘Whites Only’ section. ・ “Give up your seat, or I’ ll call the police.” ・ The police came and arrested her.
	③本文音読・単語の練習を行う。 ④ペア交流 “If you were Ms. Parks, would you give up your seat?” というトピックで対話活動を行う。 No, I wouldn’t. I would refuse because I didn’t sit ‘Whites Only’ section. And I think I should not be arrested. Discrimination makes us unhappy. ⑤抽出生徒の英文を聞き、発話内容について理解する。 No, I wouldn’ t. I would refuse because I didn’t sit ‘Whites Only’ section. And I think I should not be arrested. The driver said “Give up your seat, or I’ll call the police.” It’ s not right. Discrimination makes us unhappy. We should make the better world. ⑥再構築 ・抽出生徒の英文からポイントを確認し、再構築をする。	・トピックに対して、②の対話活動で使用した英文を活用して対話活動を行うよう指導する。(④) ・内容理解の視点で読み取った英文や、自分の考えについて、接続詞や副詞を用いて伝えている生徒を抽出する。(⑥) ・以下の視点で再構築するよう指導する。(⑥) 再構築のポイント (i) 教科書の文を引用しているか。 (ii) 自分の日常生活で、自分は何をししていくのか。
展 開		・再構築の際に、2つのポイントを提示する。そして、生徒に自分の英文にもし足りていないポイントがあれば補うよう指導し、⑦で英文を書きまとめられるようにする。(⑥)
終 末	⑦自分の考えを書きまとめる。 I think this problem Ms. Parks had will never happen again. If I were her, I would refuse. Her action was right, but she was arrested. Discrimination makes us unhappy. In my daily life, I’ll promise that I greet to everyone, anytime to realize the world that has no discrimination.	・⑥で行ったポイントがおさえてあることがまとまりのある英文であることを指導する。(⑦) 〈評価規準〉 人種差別に関する内容について理解し、自分の考えについて、教科書を引用するなどして、まとまりのある英文を書いている。(思判表)

1 単元の目標

ALTが週末行くレストランを決められるように、市内のレストランについて、表の情報をもとにすすめることができる。

「指導と評価の計画」の「単元の目標」と一致させる。

2 実施方法

生徒がALT におすすめのレストランを発表している動画を撮影し、評価する。

※その他の実施方法例

あれば記載する。

- ・自分で発表の様子を録画し、学習アプリなどを活用して提出する。
- ・別室にて実施し、発表している間に次の発表者が問題文を読み、考える時間とする。

3 問題内容

次のような指示文が印刷された用紙を準備し、テーブル

- ・小見出し「BIZ UDP ゴシック 10.5pt 太字」
- ・内容「UD デジタル教科書体 NP-R 10.5pt」
- ・行間「固定値 14pt」

肉料理が好きな ALT が今週末、市内のレストランに行こうと思っています。次の表を見て、このレストランの中から、ALT に発表してください。考える時間は 2 分です。

Name of the Restaurant	Type	Main Menu	Price	Popular
Maeda	Japanese	Tonkatsu	1,500 yen	☆ 4.0
Koraku Tei	Chinese	Gyoza and Tan tan men	800 yen	☆ 4.4
Bonjorno	Italian	Meat Pizza	1,200 yen	☆ 4.6
Hida-ji	Japanese	Hida Beef sukiyaki	2,800 yen	☆ 4.3

4 「思考・判断・表現」について、以下の2つの条件を全て満たしていれば「b」とする。

条件1: 表の内容を引用して、根拠を話している。(表を縦方向や横方向に見て、提案する店の魅力を伝えている。)

条件2: ALT の好みを根拠に意見を述べている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	表の内容を引用しながら、2つの条件を満たして述べている。	表の内容を引用しながら、2つの条件を満たして述べようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	2つの条件を満たして述べている。	2つの条件を満たして述べようとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

5 生徒の発表例 すべての観点で評価「b」の生徒

Student : Hello. I know you likes meat very much, so how about *Hida-ji*? 【条件1】 It is a Japanese restaurant. You can eat a lot of meat there. The meat is *Hida Beef*. 【条件2】 Gifu is famous for *Hida Beef*. The restaurant is expensive, but please look at this. *Hida-ji* got 4.6 ☆, so it is the most delicious restaurant of the four. Please go there.

※下線部は、誤りがある発話や文として不十分な発話を指す。

※ あれば、表の内容を効果的に引用している(表から複数の情報を読み取り、提案する店の魅力を伝えている)と判断し、思考・判断・表現の評価を「a」とする。

「指導と評価の計画」の「単元の目標」と一致させる。

1 単元の目標

自己紹介を聞いて、聞き手にとって必要な情報を捉えることができる。

2 問題

【指示文】

あなたは留学生のジャック（Jack）の自己紹介を聞いて、あなたはどの部活動に誘うかを考えています。自己紹介を聞いて、あなたが誘いたいと思った部活動とその理由を日本語で書きなさい。

【スクリプト】

Hello. I' m Jack. I' m from Australia. I like sports. I play tennis with my friends on Sundays. Tennis is popular in my country. I want to play it with you. I also like cricket, but I don' t play it. I like watching it. My brother is on the cricket team. I often watch his games. Baseball is popular in Japan. I want to watch a baseball game. Nice to meet you.

- ・小見出し「BIZ UDP ゴシック 10.5pt 太字」
- ・内容「UD デジタル教科書体 NP-R 10.5pt」
- ・行間「固定値 14pt」

3 正答

【正答】

・部活動：テニス部

理 由：テニスをしたと言っていたから

・部活動：卓球部

理 由：テニスがしたいが、テニス部がないので卓球がテニスと似ていると思ったから

【説明】

- ・理由については、目的を達成するために必要な情報が書かれているものを正答とする。
- ・テニス部が妥当であると判断できるが、テニス部がない学校も考えられる。テニスとの共通点を考慮した解答も正答とする。

正答に説明が必要な場合は、【正答】【説明】という小見出しをつける。説明が必要ない場合は、小見出しをつけずに、正答のみを記載する。

4 出題の意図

留学生の自己紹介を聞いて、部活動に誘うために必要な情報を捉えることができるかを問う問題を出題することとて、自己紹介を聞いて、聞き手にとって必要な情報を捉える力が付いているかを判断する。

『「～～」を問う問題を出題することで、「……」力が付いているかを判断する。』と記載する。「……」は、「1単元の目標」をもとに記載する。

学習到達目標（令和5年度岐阜県小中英研作成）

	1年	2年	3年
聞くこと	関心のある事柄や日常的な話題について、はっきりと話されているボイスメッセージや商品の説明などの短い英語を聞き、必要な情報や概要、要点を捉えることができる。	日常的な話題や社会的な話題について、はっきりと話されているスピーチなどの内容に一貫性のある英語を聞き、必要な情報や概要、要点を捉えることができる。	日常的な話題や社会的な話題について、自然な口調で話されているアナウンスやディスカッションなどの情報量の多い英語を聞き、必要な情報や概要、要点を捉えることができる。
読むこと	関心のある事柄や日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた学校生活や物語文などの短い英文を読み、必要な情報や概要、要点を捉えることができる。	日常的な話題や社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれたスピーチや説明文、物語文などを挿絵やグラフなどを参考にして読み、必要な情報や概要、要点を捉えることができる。	日常的な話題や社会的な話題について、世界情勢や歴史上の人物などについて書かれている情報量の多いまとまりのある英文を読み、必要な情報や概要、要点を捉えることができる。
話すこと「発表」	関心のある事柄や日常的な話題について、自分の考えや気持ち、身の回りの出来事などを、その場で考えを整理して、重要な情報に強勢を置いたり、つなぎ言葉や言い直し、身振り手振りなどを用いたりして、即興で話すことができる。	日常的な話題や社会的な話題について、自分の経験や他教科などで学習したことに基づいた事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、その理由なども踏まえて、まとまりのある内容になるように構成を工夫しながら話すことができる。	日常的な話題や社会的な話題について、客観的な事実や様々な考えなどに基づいた自分の考えたことや感じたこと、その理由などを、経験したことの例示などとともに、聞き手の理解に応じて繰り返したり、強調したりしながら話すことができる。
話すこと「やり取り」	関心のある事柄や日常的な話題について、自分の考えや気持ち、身の回りの出来事などを、相手の発話に応じて、関連した質問や意見を述べたりするなどして、対話を継続させながら、即興で伝え合うことができる。	日常的な話題や社会的な話題について、自分の経験などに基づいた考えや気持ちとその理由、具体例や事実など、まとめた内容を整理して伝えた上で、伝えた内容に対する質問に応答しながら、対話を継続・発展させて伝え合うことができる。	日常的な話題や社会的な話題について、客観的な事実や様々な考えなどに基づいた自分の意見・主張とその理由などを、対話がより継続・発展するように、聞き手の理解の状況を確認しながら、相手からの質問に対して適切に応答したり、自ら質問を繰り返したりするなどして、工夫しながら伝え合うことができる。
書くこと	関心のある事柄や日常的な話題について、自分の考えや気持ち、身の回りの出来事などを、文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成したり、読み手に伝えたい内容を整理したりしながら、まとまりのある文章を書くことができる。	日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、文と文の順序や内容などのつながりに注意したり、文章構成の特徴を意識したりしながら、まとまりのある文章を書くことができる。	日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことについて、話題に対しての賛否や自分の意見を述べたり、その理由や根拠を明確に述べたりしながら、内容を整理して、読み手に分かりやすい文章を書くことができる。

事業部活動

令和7年5月14日(水) 事業部長 濱 正人

1. 令和7年度活動方針

◎岐阜県小中学校英語研究部会事業部の活動を創造的・発展的に推進する

1. 令和7年度の岐阜県中学校英語弁論大会及び中学校英語スピーチコンテスト(地区大会)が円滑に進行できるよう企画・運営していく。
2. 教科書準拠のワークブックを現場の声や新学習指導要領の内容を踏まえ、岐阜県版として特色あるものにする。
3. 各郡市の代議員との連携を深め、事業部の活動へ生かしていく。

2. 活動内容

(1) 第45回岐阜県中学校英語弁論大会(岐阜県大会)

県大会の内容及び実績は、これまでの Ways of Teaching English で確認していただきたい。また、これまで岐阜県英語科の諸先輩方の努力によって、岐阜県中学校英語弁論大会は、多くの中学生が参加し、年々その質も高まってきた。今年度も、高円宮杯第77回全日本中学校英語弁論大会(全国大会)をめざして、各地区大会、県大会の順番で企画・運営し、岐阜県内の中学生の英語力向上の機会としていきたい。

第45回岐阜県中学校英語弁論大会について

- ・企画・運営:事業部(事業部長, 事業副部長, 事業部常任委員)が中心となる。
- 本部事務局員, 岐阜地区の各郡市の代議員, 岐阜市の教育研究会役員は, 要請により企画・運営の補助を行う。
- ・日時及び会場:令和7年9月27日(土)/ 岐阜聖徳学園大学 羽島キャンパス
(予備日:10月4日(土)/ 岐阜聖徳学園大学 羽島キャンパス)
- ・参加資格:全国大会(高円宮杯第77回全日本中学校英語弁論大会岐阜県大会)の参加資格に準ずる。
- ・参加人数:各地区大会(6地区)で選出された優秀なスピーカー50名

<県大会参加者50名の決め方・内訳>

⇒各地区の参加者数が, 6地区大会の総参加者数に占める割合に応じて, 県大会への出場人数を決定する。小数点に関しては, 四捨五入して人数を決める。

【例】各地区の参加者の合計が100名で, 岐阜地区大会の参加者数が21名だった場合, 岐阜地区の参加者数は, 全体の21%なので,

$50(人) \times 0.21 = 10.5(人) \Rightarrow$ 県大会への出場者は, 四捨五入して11人となる。

※ただし, 平成25年度より「地区代表は, 1校から3名までとする。」という規定を守る。

<最優秀賞者の選出方法について>

- ・県大会出場者50名を, 10名ずつの5つの予選グループに分け, 予選会を行う。
- ・それぞれの予選グループから, 2名の優秀なスピーカーを選出する。
- ・5グループ $\times$ 2名=10名で決勝を行う。
- ・10名の中から3名の最優秀賞を決定し, 選ばれた3名は11月26日(水)~28日(金)に東京で行われる全国大会(高円宮杯第77回全日本中学校英語弁論大会)へ出場する。

(2) 第45回岐阜県中学校英語弁論大会(各地区大会)

地区大会の運営は、事業部常任委員の各地区担当が中心となり進めていく。また、企画・運営にあたっては、各地区教育事務所及び郡市代議員の先生方の力を借りながら、地区大会がスムーズに運営できるようにしていく。

令和7年度 各地区日程と会場

地区・県	日時	会場
岐阜	8月19日(火)	岐阜聖徳学園大学 羽島キャンパス
西濃	8月20日(水)	垂井町立不破中学校
美濃	8月19日(火)	関市文化会館
可茂	8月19日(火)	広見地区センター
東濃	8月19日(火)	瑞浪市総合文化センター
飛騨	8月19日(火)	高山市民文化会館
県大会	9月27日(土)	岐阜聖徳学園大学 羽島キャンパス

令和7年度 事業部常任委員 各地区担当

地区	各地区担当	所属校	連絡先・メールアドレス
岐阜	大塚 光朗	岐阜市立岐阜清流中学校	【電話】058-231-6248 gichu01@seiryu-j.gifu-gif.ed.jp
西濃	久保田 恭平	垂井町立不破中学校	【電話】0584-22-1020 fjh40221@tarui-school.ed.jp
美濃	石原 佑華	関市立下有知中学校	【電話】0575-22-3179 shimouchi-jh@edu.city.seki.gifu.jp
可茂	高木 昂太	美濃加茂市立西中学校	【電話】0574-25-2263 nishi-jhs@edu.forest.minokamo.gifu.jp
東濃	島倉 渉	土岐市立濃南中学校	【電話】0572-52-2160 nounan@ed.city.toki.gifu.jp
飛騨	松本 耕平	飛騨市立神岡中学校	【電話】0578-82-1164 kamioka-jhs-0231@school-hida.jp

(3) 岐阜県版ワークブックの改善・改訂

現在、岐阜県版として作成しているワークブック等は、下記のとおりである。

☐ ニュー・アプローチ【全学年】 (各学年 定価690円 税込み)

(本誌+単元別リスニングテスト+語順と単語のリピードリル)

※今年度は、単元別リスニングテストは web よりダウンロードする形式となっています。

3. 活動計画(案)

4月	・各地区事業部の引き継ぎ(主に中学生英語スピーチコンテストの役割など)
5月	◇第1回代議員会・研究協議員会 ・中学生英語スピーチコンテスト(各地区大会)の要項の最終確認及び配布 ・各郡市教育研究会研究テーマ等の取りまとめ ・岐阜県中学校英語弁論大会(県大会)の開催要項配布
6月	◇第2回研究協議員会 ・中学生英語スピーチコンテストについて検討や確認等
7月	◇中学生英語スピーチコンテスト準備委員会(岐阜, 西濃, 美濃, 可茂, 東濃, 飛騨)
8月	○中学生英語スピーチコンテスト(岐阜, 西濃, 美濃, 可茂, 東濃, 飛騨)
9月	◇岐阜県中学校英語弁論大会準備委員会 9月6日(土)の予定 ・岐阜県中学校英語弁論大会打合わせ ○第45回岐阜県中学校英語弁論大会 9月27日(土) 予備日10月4日(土)
10月	◇第3回研究協議員会 ・中学生英語スピーチコンテスト, 岐阜県中学校英語弁論大会の反省 ⇒ 来年度の在り方を検討
11月	□高円宮杯第77回全日本中学校英語弁論大会 ※県代表は1校から1名とする。 ・決勝予選大会 11/26(水) 27(木) 赤坂区民ホール ・決勝大会 11/28(金) 有楽町よみうりホール
12月	◇第4回研究協議員会 ・岐阜県中学校英語弁論大会・中学生英語スピーチコンテストの引き継ぎ事項の確認, 来年度の要項作成 ・来年度の中学生英語スピーチコンテストについて確認, 岐阜県版ワークブックの見直し ・Ways of Teaching English 原稿確認
2月	◇第2回代議員会 ・次年度の岐阜県中学校英語弁論大会及び中学生英語スピーチコンテストの運営方法確認

4. 各郡市の代議員の役割と事業部との連携について

□連携体制:【事業部】⇄【各地区常任委員】⇄【各郡市代議員】⇄【各郡市教育研究会】

□各郡市代議員との連携による事業活動

・岐阜県版ワークブック等の採用状況把握

・各郡市研究会の研究テーマ及び, 各郡市の代議員, 研究協議員の報告

□各郡市教育研究会において各郡市代議員が主体となって実施する事業活動

<前期> ・中学生英語スピーチコンテスト(各地区大会)の開催

・岐阜県版ワークブック等の採用状況の確認, 意見などの集約

<後期> ・岐阜県版ワークブックの採用状況や, 次年度へ向けた採用予定のワークブックの確認

・令和8年度中学生英語スピーチコンテストの要項作成

5. 添付資料

<過去6年間のスピーチコンテスト 参加生徒数の推移>

	岐阜地区	西濃地区	美濃地区	可茂地区	東濃地区	飛騨地区	県全体
H30	108	90	58	60	82	78	476
R1	87	63	50	64	83	54	401
R3	82	56	39	43	70	30	320
R4	85	51	38	39	62	40	315
R5	89	59	44	41	76	35	344
R6	85	67	39	37	66	35	329

<過去6年間のスピーチコンテスト 参加中学校数の推移>

	岐阜地区	西濃地区	美濃地区	可茂地区	東濃地区	飛騨地区	県全体
H30	46	28	19	22	34	22	171
R1	41	29	19	23	33	21	166
R3	36	23	19	18	33	18	147
R4	38	23	19	19	30	19	148
R5	37	24	18	18	32	20	149
R6	38	25	18	18	30	19	148

今年度も、事業部をよろしくお願いいたします。

研究部・事業部の昨年度の成果と来年度の活動計画案

主務: 田中 大輔(関市立下有知中学校)

【令和7年度の研究テーマ】

「できた・分かった」を実感しながら、
コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて
～五領域における学習到達目標を明らかにし、
言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～

Ⅰ はじめに(昨年度の振り返り)

【令和6年度のキーワード】

『来てよかった』と思える小中英研

○学校に持ち帰り、児童生徒に還元できる提案

○英語科教員同士のつながりを感じられる交流

昨年度における小中英研のキーワードを『来てよかった』と思える小中英研』として、運営しました。小学校部会では、教科書改訂に伴い、パフォーマンステストの作成を行いました。中学校部会では、教科書改訂を見通した汎用性のある提案を作成しました。事業部では、スピーチコンテストの円滑な運営を行いました。また、岐阜県版のワークブック(NEW APPROACH)についても見直しを行いました。单元テストなどで使用可能となっている「絶対評価プリント」(岐阜県版)についての意見交流を行い、問題の質を高める討議を行いました。

2 研究部の活動

小学校部会

現在、岐阜県では、Blue Sky, NEW HORIZON elementary, Here We Go, Junior Sunshine の4つの教科書が採択されています。令和6年度は、新しく採択された教科書を使用する初年度となったため、「指導と評価の一体化」に向けて、到達目標の見直しとパフォーマンステスト作成を行いました。

- ① パフォーマンス課題の目的や場面、状況等の程度
- ② パフォーマンス課題と期待される児童の発話内容・対話内容との不一致
- ③ 思考・判断・表現を測るためのパフォーマンス課題の在り方

以上3つのポイントにおける捉え方について、協議を重ね、パフォーマンステストを作成しました。評価について、協議を重ねることで、授業における指導についても、何を指導するのかが明確になりました。改めて「指導と評価の一体化」について、理解することができました。

中学校部会

令和7年度から教科書が改訂されるため、[Communicative Activity 部会]のNEW HORIZON 部会では、汎用性のある提案を行いました。NEW CROWN 部会では、3年生 Project 1～3の『指導と評価の計画』を作成し、すべての Lesson, Project における『指導と評価の計画』を完成することができました。

[Communicative Activity 部会]

NEW HORIZON	NEW CROWN
<指導改善の具体> ・ 知識・技能 ・ 思考・判断・表現（内容理解） ・ 思考・判断・表現（発信）	・ 3年生 Project の『指導と評価の計画』作成

<指導改善の具体>では、評価の観点別に、知識・技能部会と思考・判断・表現部会に分け、さらに、思考・判断・表現では、内容理解（Input）と発信（Output）に部会を分けて、提案を行いました。実践を基に、指導の意図を明記することで、Ways を読んだ先生方が、ご自身の実践に取り入れられるようにしたいという願いをもって、作成しました。

[テスト作成部会]

NEW HORIZON
・ 学習到達目標と各学年の各単元におけるつながりを明確にしたテスト問題の作成 ・ 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」における『思考・判断・表現』の問題作成

学習到達目標とのつながりを意識したテスト問題を作成しました。また昨年度は、「思考・判断・表現」の問題のみ提案を行いました。理由は、これまでのテスト作成部会に参加した先生方の中から、「知識・技能の問題は、比較的作成に迷いが無いが、思考・判断・表現の問題については、作成することが難しい。」という声が聞こえてきたからです。これは、小中英研に参加している先生方だけではなく、岐阜県内すべての先生方も、同じことを感じている先生方がいると考え、「思考・判断・表現」の問題に特化して、提案を行いました。

3 事業部の活動

昨年度、岐阜県教育委員会藤田先生をはじめ、部会長中村校長先生、大会長平田校長先生より御指導をいただき、岐阜聖徳学園大学羽島キャンパスにて開催することができました。

例年の開催方法に倣い、スピーチ原稿集や申込関係書類をデジタル化したり、動画を提出していただいたりと、手続きを簡易的なものにすることで、負担なく進めることができました。また、至学館大学の山田教授に審査員長を務めていただき、より専門的な視点から審査をしていただきました。運営に関わっては、各地区大会及び県大会で御手伝いただいた先生方や実行委員の先生方の柔軟な対応のおかげで、参加生徒にとって、大変充実した大会を開催することができました。

4 来年度(令和7年度)の活動計画(案)

~~4月19日(土) 第1回常任委員会及び第1回G長会~~

5月14日(水) 第1回代議員会(リモート開催)

5月17日(土) 第1回研究協議員会

6月19日(木) 第2回研究協議員会

8月 各地区でのスピーチコンテスト ※R7県統一研究日(8/19・20)

19日(火)岐阜地区 20日(水)西濃地区 19日(火)美濃地区

19日(火)可茂地区 19日(火)東濃地区 19日(火)飛騨地区

9月 6日(土) 英語弁論大会準備委員会(リモート開催)

9月27日(土) 第46回岐阜県中学校英語弁論大会 ※会場は、岐阜聖徳学園大学 羽島キャンパスです。

10月22日(水) 第3回研究協議員会

※ スピーチコンテスト・英語弁論大会以外の日程は、現段階での案ですので、変更の可能性があります。

12月 6日(土) 第4回研究協議員会

1月 5日(月) 第2回G長会

2月25日(水) 第2回代議員会(リモート開催)

5 その他・連絡

【令和7年度のキーワード】

『また参加したい』と思える小中英研

○英語科教員同士のつながりを感じられる交流

○児童生徒に還元できる学びのある提案の検討

今年度における小中英研のキーワードを『また参加したい』と思える小中英研』として、運営していきたいと考えています。『また参加したい』の中身は、①「学びがあること」と②「良好な人間関係を築くことができること」だと捉えています。皆様が、提案の検討を通して、①、②の点が実感できるよう運営していく所存です。